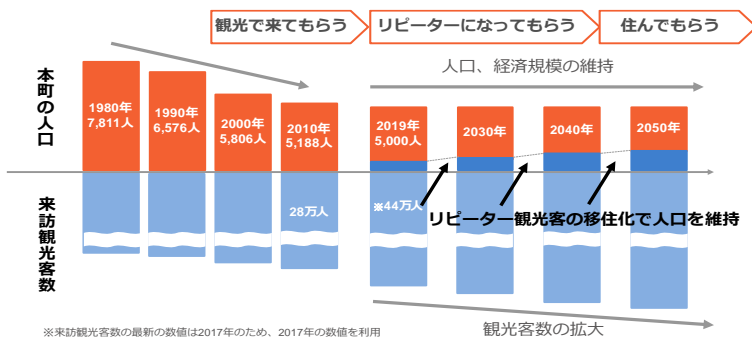


1 上士幌町の課題、観光振興をすすめる意義

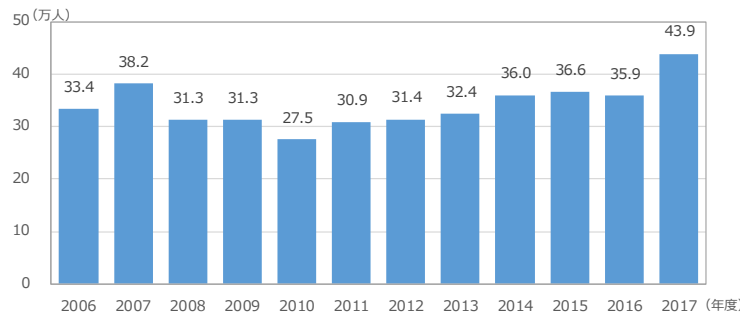
人口の維持、次世代へ安定した生活環境を

我が国においては、少子高齢化により、平成22年をピークに人口減少社会に突入し、30年後の平成57年には1億人程度まで減少するものと予想されており、多くの地域で人口減少による地域経済への悪影響が懸念されています。上士幌町においても、現時点では、自治体の定住政策が功を奏し、人口は伸びていますが、将来的には同様の傾向が示され、町の機能が持続していくような取組が必要とされています。

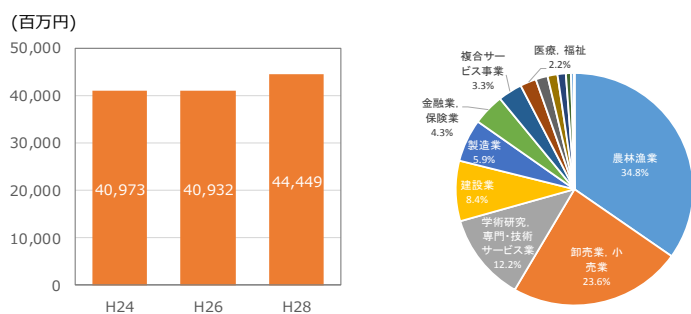
【上士幌町の人口数と予測】



【上士幌町の観光客数】

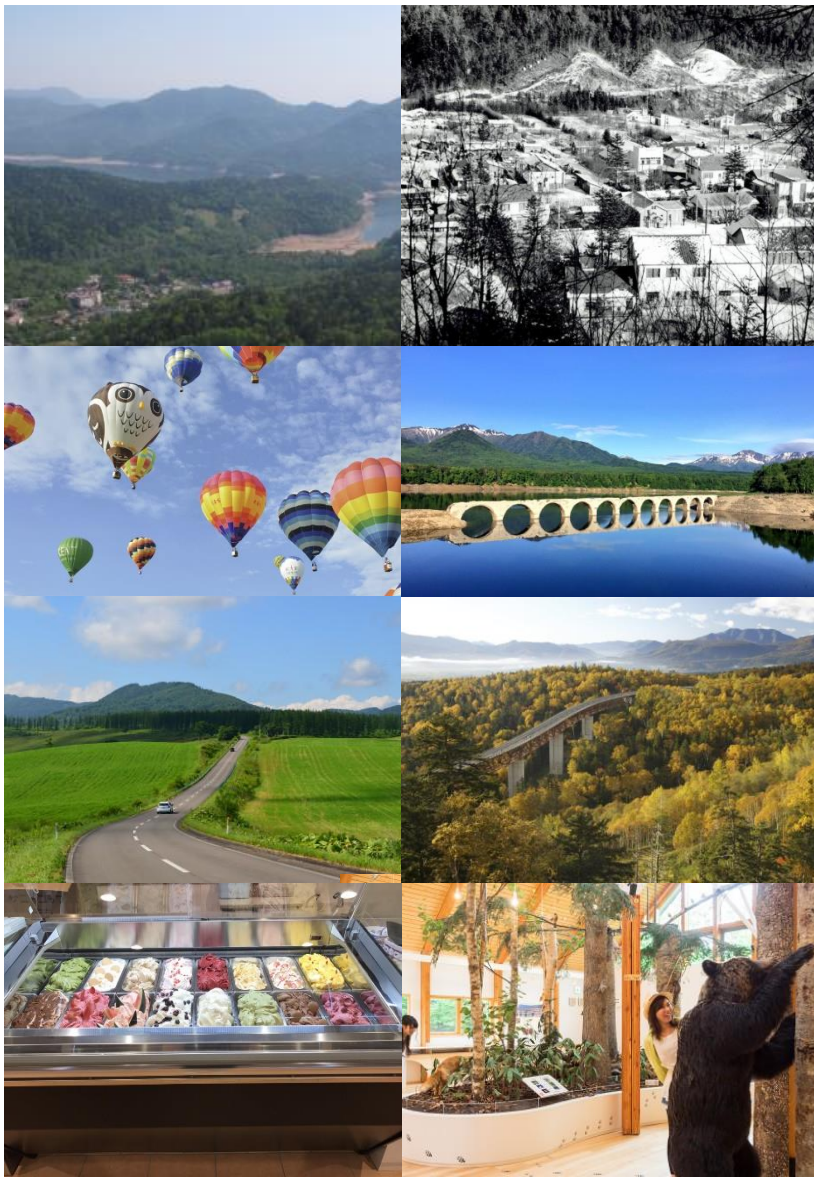


【上士幌町の事業者売上と売上構成比】



豊かな資源「上士幌町の宝」を次世代へ継承

大雪山国立公園の麓に位置し、雄大な自然に囲まれた上士幌町、日本一広大な公共牧場「ナイタイ高原牧場」、IoTによる農業、酪農システム、エネルギー再生事業等豊富な産業資源があります。最近、人気が高い、タウシュベツ川橋梁をはじめとする旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群は十勝平野開拓の歴史の象徴であり、上士幌町の林業の繁栄の歴史は次世代へ引き継がなくてはならない重要な資源です。

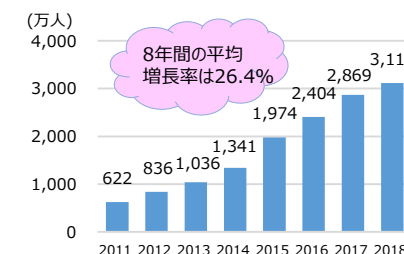


観光振興による地域活性化「まちを元気に」

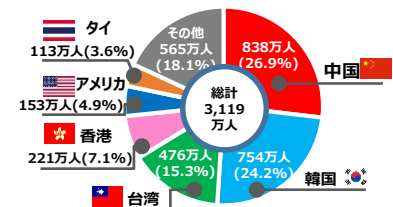
交流人口の拡大や、急速な成長を遂げるアジアをはじめ世界の需要を取り込むことにより、我が国の経済が力強い成長を遂げると期待されています。観光産業は地域経済への波及効果が大きく、政府の新成長戦略の中においても重要課題と位置づけられています。

上士幌町が誇る多くの産業を観光を通して国内外にPRすることで、地域の活性化、住民の安定した生活を目指します。

【訪日外国人旅行者数】

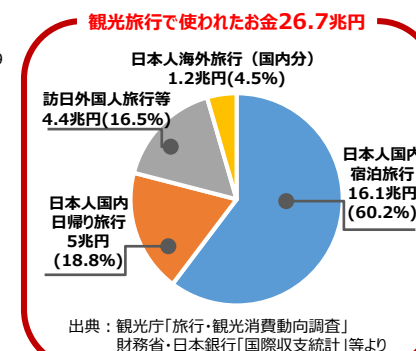


【訪日外国人旅行者内訳数】



出典：日本政府観光局（JNTO）
注：（）内は、訪日外国人旅行者数全体に対するシェア

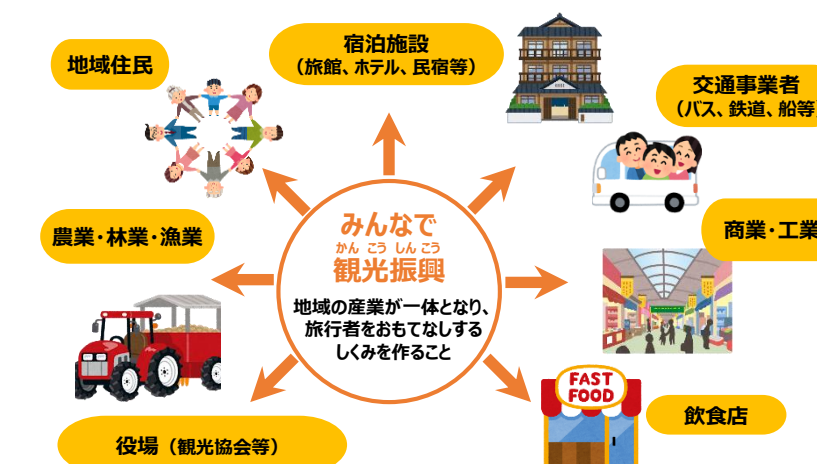
【観光旅行の消費額】



日本への経済貢献度
経済効果

外国人旅行者によって使われたお金は
2016年と比べて6,684億円増えていま

【観光振興の取組体制】



2 上士幌町のビジョンと戦略 「上士幌の人のつながりと価値 ～つなげよう次の世代へ～」

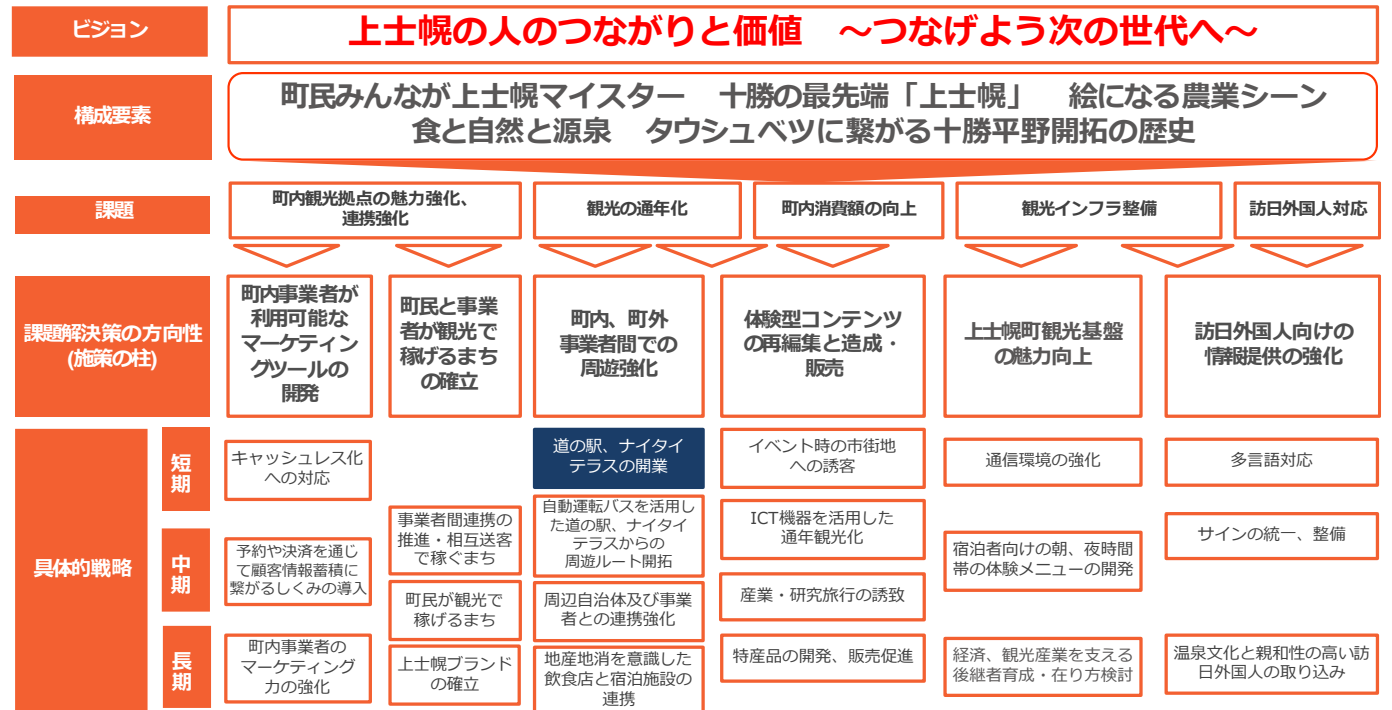
【ビジョンに込めた想い】

本町は、観光客や新たな住民である移住者を受け入れる温かさ、小さな町ならではの、人と人の温かいつながりがあります。

一方、本町は町全体の付加価値額の合計値の36.8%を農林業で占め、一躍人気となった十勝ナイタイ和牛や、アイスクリームなど、本町で生まれ育った「食」が数多くあります。

また、開湯100年の歴史を持つぬかびら源泉郷を始め、十勝平野開拓を担った旧国鉄士幌線のタウシュベツ川橋梁、などの多くの魅力的な観光資源があります。

子供から大人まで、全町民が関わり、観光振興を行うことで、人と人のつながりや価値ある観光資源を維持、発展させ、郷土愛をはぐくみ、次の世代の子供たちにつなぐことを目指します。



3 上士幌町の観光振興に向けた重点施策 魅力ある資源の活用

①町民みんなが上士幌マイスター

固有の歴史、文化、なりわいから最先端技術まで

②十勝の最先端「上士幌」

バイオガス発電、自動運転バス

③絵になる農業シーン

十勝特有の防風林や麦稈ロール

④食と自然と源泉

ぬかびら源泉郷、ナイタイ和牛、アイスクリーム

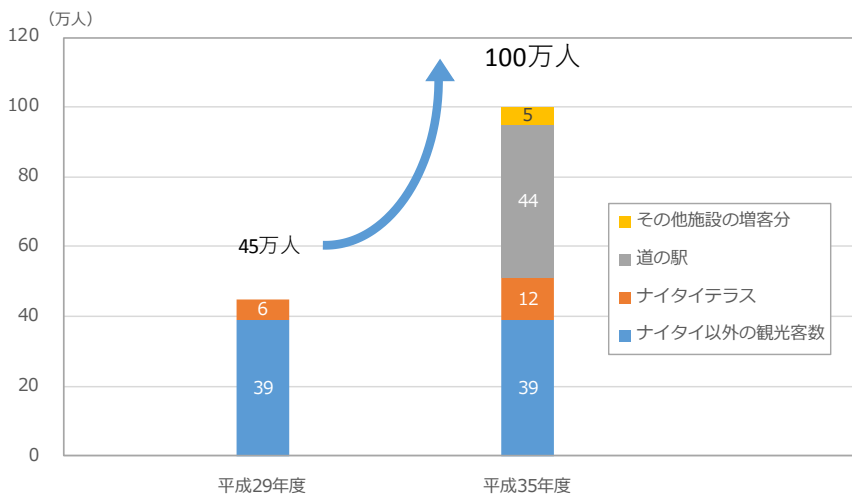
⑤タウシュベツに繋がる十勝平野開拓の歴史

林業で栄えた歴史、鉄道開通による発展



4 観光入込客数100万人達成に向けて 「ぬかびら源泉郷」「ナイタイテラス」「市街地」を核とした周遊戦略

平成35年（本計画最終年）観光入込客数 100万人



平成29年度の本町の観光客数は、約45万人
本町総合戦略で記載している観光客数増率の見込みは15% 観光地域商社が見込む道の駅の集客数は60万人、ナイタイテラスは12万人
ナイタイ高原レストハウスの昨年度の観光客数は約6万人「しほろぴあ21」（士幌町の道の駅）の集客数は44万人（初年度）上記を勘案し、以下を想定。

①ナイタイ以外の観光客数	39万人
②ナイタイテラスの観光客数	+12万人
③道の駅の観光客数	+44万人
④その他施設の増客分	+05万人
合計	100万人

